



## ◆ 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、平素からお世話になり、大変ありがとうございます。

さて、当センターの事業につきましては、気象業務法による指定・登録法人としての業務（気象情報の提供、気象予報士試験、測器検定など）を中核としつつ、国際協力や地球環境・防災等の研究の分野においても新たな展開を進め社会に貢献してきています。

これら業務の実施に当たっては、予報業務や測器製造にかかわる民間の事業者や報道機関をはじめ気象庁・気象研究所、文部科学省、環境省、大学・研究機関、国際協力機構（JICA）など、産官学の多岐にわたる関係者にご指導・ご協力を頂いております。

ここに昨年の業務を振り返りつつ、関係者の皆様に改めて深く感謝申し上げたいと思います。

特に、コロナ禍も4年目を迎えており、センターの業務につきまして、感染防止対策と今後の展望も含めご紹介したいと思います。

### 【参考】

当センターの新型コロナウイルス感染症への対策につきましては、ホームページでお知らせしています。2021年2・3月の話題では「コロナ禍の半年！」としてとりまとめご紹介していますが、現在でも基本的には対策に大きな変更はありません。

話題（2021年2・3月）URL：[http://www.jmbsec.or.jp/jp/topics/2021/2102-03\\_1.pdf](http://www.jmbsec.or.jp/jp/topics/2021/2102-03_1.pdf)

お知らせ（その14）URL：[http://www.jmbsec.or.jp/jp/oshirase/20221201-1\\_oshirase.pdf](http://www.jmbsec.or.jp/jp/oshirase/20221201-1_oshirase.pdf)

## 《気象情報の提供》

当センターでは、気象庁が提供する気象等の注意報・警報や地震火山情報等の防災気象情報、さらに静止気象衛星“ひまわり”や気象レーダー、アメダス等に代表される観測データ、数値予報等の解析・予測資料などを民間事業者等にオンラインで配信するサービスを行ってきていますが、おかげ様でコロナ禍にあっても24時間体制の下、安定かつ迅速・確実に気象情報をお届けしてきています。毎年ご紹介してきていますが、近年の観測・予報技術の高度化などの技術基盤のうえに、急激に発展する情報通信技術（ICT）を背景に産業構造が急激に変革するなか、防災・減災や社会・経済活動における気象情報への期待とニーズの高まりから、配信サービスの利用者数が順調に伸びてきています。主要な4つの配信サービスの利用者は、近年は毎年30～50者程度の純増により延べ約650者、実数としても500者程度となっています。

このような気象情報へのニーズと気象庁による情報の改善に的確に対応するため、当センターでは計画的にオンライン配信システムを更新・整備してきていますが、気象庁ではスーパーコンピューターシステムの更新と併せてクラウド環境の整備を予定しており、この環境を当センターの情報提供業務でも利用させて頂くべく検討を進めています。また、本年は、大阪管区气象台に設置している大阪バックアップシステムの更新を計画しており、引き続き、多くの関係機関や利用者の方のご支援ご協力を頂きつつ円滑に計画を進めたいと考えています。

また、オフライン情報の提供業務についても、大容量データを中心に利用状況が堅調に推移してきており、引き続き、安定的な情報提供に努め、民間も含め気象業務の技術基盤の確保に貢献して参ります。また、気象庁が整備予定のクラウド環境についても効果的かつ効率的な利用方法について検討を進めたいと考えています。

### 【参考】

オンライン配信の利用者の動向、気象予報士試験の実施状況及び気象測器検定の実施状況につきましては、2022年2-5月の話題で「2020（令和2）年度末における「情報提供業務（オンライン）」の利用者の動向について」としてご紹介しています。

話題（2022年2-5月）URL：[http://www.jmbsec.or.jp/jp/topics/2022/2202-03-04-05\\_1.pdf](http://www.jmbsec.or.jp/jp/topics/2022/2202-03-04-05_1.pdf)

## 《気象予報士試験》

新型コロナウイルスへの感染対策の下、昨年1、8月には第57、58回試験を全国8会場で無事実施することができました。全国の受験者の皆様のご協力に深く感謝します。また、本年1月29日（日）の第59回試験におきましても、感染対策の下、全国6会場で実施されました。

気象予報士試験につきましては、近年減少傾向が続いていましたが、昨年はコロナ禍ではありましたが受験申請者が9,720名となり、前年よりも2千名近く増えました。このうち、428名の方が合格

しました。感染の不安から受験を差し控える申請者もありましたが、一昨年 NHK で放送された気象予報士の活躍を描いた NHK の“所謂：朝ドラ”の影響のためか、申請者・受験者数ともに比較的大きく伸びています。

気象予報士試験も、過去 27 年間で合格者が約 1 万 2 千名近くに達しています。近年気象災害が多発するなか、気象予報士が TV・ラジオ・インターネット等の様々な場で活躍しており、引き続き、気象予報士の技能向上のため、各種講習会の開催や気象庁作成の研修テキストの頒布など、技術的な支援を行うこととしています。

#### 【参考】

気象予報士試験でのコロナ対策については、2020 年 8・9 月の話題では「気象予報士試験の新型コロナウイルス感染症対策！」として一昨年の第 54 回試験の状況をご紹介します。それ以降の試験でも同様な万全な対策で実施してきています。また、各種講習会等については、以下の HP をご覧頂きたいと思えます。

話題（2020 年 8・9 月）URL：[http://www.jmbsec.or.jp/jp/topics/2020/2008-09\\_1.pdf](http://www.jmbsec.or.jp/jp/topics/2020/2008-09_1.pdf)

講習会の HP・URL：<http://www.jmbsec.or.jp/jp/seminar/seminar.html>

### 《気象測器検定》

国内には、気象庁以外にも、国・地方自治体・民間等での気象観測施設が、気象庁に届け出されたものだけでも 3 万か所弱あります。こうした観測所の気象測器につきましては、観測データの品質確保の重要性から必要な測器について検定を受けることとされています。当センターは、測器検定の実施機関（登録検定機関）として、毎年 1 万件を超える雨量計、温度計、風速計等の検定を行っており、引き続き、「気象庁気象測器検定試験センター」の技術的な支援も頂きつつ、関係事業者にもご協力を頂きつつ、安定的に実施して参ります。

#### 【参考】

気象測器検定の実施状況につきましては、2021 年 6・7 月の話題で「気象測器の検定実施状況について（続報）」として、センターが業務を開始以来の過去 18 年半について取りまとめています。

話題（2021 年 6・7 月）URL：[http://www.jmbsec.or.jp/jp/topics/2021/2106-07\\_1.pdf](http://www.jmbsec.or.jp/jp/topics/2021/2106-07_1.pdf)

### 《振興・調査業務》

振興業務では、「気象年鑑」の発行、気象庁刊行物の頒布のほか、コロナ感染症対策の一環として各種講習会をオンライン会議システムにより開催しており、そのメリットを活かして、全国から気象予報士等に参加頂いています。各種協議会の事務局としても、民間事業者等との連携の下、その役割を果たしてきました。

調査業務としましては、熱中症対策のための全国の主要地点における気象等の観測を行ってきており、環境省・気象庁発表の「熱中症警戒アラート」等を通して、引き続き、社会に貢献して参りたいと考えています。

#### 【参考】

当センターでは、気象庁に監修を頂きつつ毎年「気象年鑑」の編集・発行を行ってきていますが、昨年の 2021 年版では、特集として「熱中症警戒アラートの提供開始」を掲載しています。

気象年鑑 2021 年版 URL：<http://www.jmbsec.or.jp/jp/publications/book/jma0190.html>

### 《国際協力》

国際協力機構（JICA）等と協同して、発展途上国の気象機関等への技術支援を行ってきており、昨年も、ベトナム、フィリピン、インドネシア、バングラデシュ、バヌアツ等において気象観測・予報警報、気候監視・予測、地震・津波監視などの能力向上のためのプロジェクトを行ってきています。特に、昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に蔓延するなか、様々な感染対策が進み、漸く対象国への渡航が順次開始され、現地でのフェース・ツー・フェースでの本格的なきめ細やかな技術支援が可能となりました。

近年、世界的に自然災害が多発するなか、多くの発展途上国が、台風や気候変動等の気象分野に加えて、地震・津波等の分野にも大きな関心を寄せており、気象庁にもご協力を頂きつつ、我が国の知見・経験を十分に活かしながら、発展途上国の防災・減災に貢献したいと考えています。

#### 【参考】

当センターがかかわる国際協力業務の一端は、HP の国際協力業務の「最近の話題」のなかで閲覧することができます。

URL: <http://www.jmbsec.or.jp/jp/research-and-international-cooperation/international-cooperation-work.html>

#### 《研究推進・支援》

気象研究所・大学等と連携して文部科学省による二つの研究プロジェクトを実施してきており、2017年に地球温暖化予測にかかわる研究プロジェクトに着手し、昨年には同プロジェクトの後継として新たな5年計画“気候変動予測先端研究プログラム(2022~26年度)”を開始しています。さらに、気象防災関連の“「富岳」成果創出加速プログラム(2020~22年度)”にも参画しております。

#### 【参考】

当センターがかかわる研究成果の一端は、HPの研究推進・支援業務の「新着情報」のなかで閲覧することができます。

URL:[http://www.jmbsec.or.jp/jp/research-promotion-and-support/research\\_news.html#20201020a](http://www.jmbsec.or.jp/jp/research-promotion-and-support/research_news.html#20201020a)

いずれにしましても、これまで円滑に業務運営できましたことに関係各位に改めてこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

コロナ禍のなか、3回目の新年を迎えますが、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りするとともに、引き続き、当センターの業務へのご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

(理事長)